

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4206018号
(P4206018)

(45) 発行日 平成21年1月7日 (2009.1.7)

(24) 登録日 平成20年10月24日 (2008.10.24)

(51) Int. Cl.

F 1

E O 4 B 2/82 (2006.01)

E O 4 B 2/82 5 2 1 A

F 1 6 B 35/04 (2006.01)

F 1 6 B 35/04 J

請求項の数 1 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2003-330839 (P2003-330839)
 (22) 出願日 平成15年9月24日 (2003.9.24)
 (65) 公開番号 特開2005-97889 (P2005-97889A)
 (43) 公開日 平成17年4月14日 (2005.4.14)
 審査請求日 平成18年6月7日 (2006.6.7)

(73) 特許権者 000000413
 永大産業株式会社
 大阪府大阪市住之江区平林南2丁目10番
 60号
 (74) 代理人 100078868
 弁理士 河野 登夫
 (74) 代理人 100084179
 弁理士 大西 哲夫
 (72) 発明者 荻田 真司
 大阪府大阪市住之江区平林南2丁目10番
 60号 永大産業株式会社内
 (72) 発明者 藤川 和美
 大阪府大阪市住之江区平林南2丁目10番
 60号 永大産業株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 連結構造

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

長手方向を左右方向に向けるようにして部屋の側壁に設けられ、開口を前方に向けた嵌合溝を有する被取付部材用レールと、被取付部材用レールに近接して設けられる間仕切り部材とを連結する連結構造であって、前記間仕切り部材は、部屋の側壁と平行に配置される連結板を有し、板状本体と、板状本体に設けられ、被取付部材用レールの嵌合溝に嵌まる嵌合突起と、板状本体に前方突出状に設けられたねじ棒と、ねじ棒にねじ嵌められるナットとを有する連結具を用いて、前記ねじ棒を前記連結板に設けられた孔に通し、前記ナットにより前記連結板を前記板状本体に押し付けてある連結構造。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、長手方向を左右方向に向けるようにして部屋の側壁に設けられた、開口を前方に向けた嵌合溝を有する被取付部材用レールと、被取付部材用レールに近接して設けられる被取付部材とを連結する連結構造に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、この種の連結具として以下の如きものは知られている。

板状本体と、板状本体に設けられた、被取付部材用レールの嵌合溝に嵌まる嵌合突起と、板状本体に前方突出状に設けられた、先端に係合突起を有する連結用シャフトと、連結

用シャフトの係合突起と係合・分離自在となされた回転係合部材とを有するものは知られている。

【特許文献１】特開２００３－１８４，２６４号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００３】

前記従来の連結具には以下の如き欠点があった。

連結用シャフトと、連結用シャフトの係合突起と係合・分離自在となされた回転係合部材とは特殊な部材であるため、コスト高であるという欠点があった。

【課題を解決するための手段】

【０００４】

本発明は前記欠点を解消するために以下の如き手段を採用した。

請求項１の発明は、長手方向を左右方向に向けるようにして部屋の側壁に設けられ、開口を前方に向けた嵌合溝を有する被取付部材用レールと、被取付部材用レールに近接して設けられる間仕切り部材とを連結する連結構造であって、前記間仕切り部材は、部屋の側壁と平行に配置される連結板を有し、板状本体と、板状本体に設けられ、被取付部材用レールの嵌合溝に嵌まる嵌合突起と、板状本体に前方突出状に設けられたねじ棒と、ねじ棒にねじ嵌められるナットとを有する連結具を用いて、前記ねじ棒を前記連結板に設けられた孔に通し、前記ナットにより前記連結板を前記板状本体に押し付けてあるものである。

【発明の効果】

【０００５】

本発明は前記した如き構成によって以下の如き効果を奏する。

請求項１の発明によれば、長手方向を左右方向に向けて部屋の側壁に設けられた被取付部材用レールの嵌合溝に板状本体の嵌合突起を嵌め、板状本体に前方突出状に設けられたねじ棒を部屋の側壁と平行に配置される連結板に設けられた孔に通し、ナットをねじ棒にねじ嵌めてナットにより連結板を板状本体に押し付けることにより、連結板を有する間仕切り部材が被取付部材用レールに連結される。従って、ねじ棒とナットとが安価であるので、従来に比較してコストの低減を図ることが出来る。

【発明を実施するための最良の形態】

【０００６】

以下に本発明の実施の形態を説明する。

なお、この説明において、前とは図１紙面表側を、後とは同裏側をいい、左とは図１左側を、右とは同図右側をいう。

【０００７】

部屋１の側壁２に、壁構成部材５からなる壁体４が施工・設置されている。

前記壁構成部材５は、複数の壁パネル７と、複数の被取付部材用レール８と、下縁材９と、上縁材１０と、左右縁材１１とを有している。壁構成部材５の被取付部材用レール８は、長手方向を左右方向に向けるようにして、壁パネル７と壁パネル７との間に介在させられる。図４に示すごとく、被取付部材用レール８に設けられた上下の嵌合突起１３が、壁パネル７の上下部の嵌合溝１４に嵌められている。被取付部材用レール８はくぎ１２（図４参照）により側壁２に固定されている。また、下縁材９、上縁材１０、左右縁材１１は、公知の固定手段により側壁２に固定されている。

【０００８】

前記被取付部材用レール８には、その長手方向に沿って、開口を前方に向けた嵌合溝１６が形成されている。前記嵌合溝１６の断面形状は、前方に向かって下り傾斜した、下方に凸となる湾曲弧状をしている（図４参照）。

【０００９】

前記被取付部材用レール８に近接して設けられるびょうぶ状の間仕切り部材１９（特許請求の範囲でいう「被取付部材」）について説明する。

前記間仕切り部材１９は、被取付部材用レール８に近接して配される連結板２０と、連

10

20

30

40

50

結板 20 に蝶番 (図示略) を介して連結されると共に下部に旋回キャスター 22 を有する第 1 の構成板 21 と、この第 1 の構成板 21 に蝶番 (図示略) を介して連結されると共に下部に旋回キャスター 22 を有する第 2 の構成板 21 と、この第 2 の構成板 21 に蝶番 (図示略) を介して連結されると共に下部に旋回キャスター 22 を有する第 3 の構成板 21 とを有している。

前記第 1 の構成板 21 は蝶番の作用により連結板 20 に対して水平揺動自在となされ、各構成板 21 は、蝶番の作用により全体としてびょうぶのように折り畳み可能となされている。

【0010】

前記各構成板 21 には、図 2 の状態で長手方向を前後方向に向けた状態となる所要本の被取付部材用レール 23 が設けられている。前記被取付部材用レール 23 には、嵌合溝 16 と同様の形状の嵌合溝 24 が形成されている (図 5 参照)。

10

【0011】

前記被取付部材用レール 8 と間仕切り部材 19 とを連結する連結具 26 は、図 3 及び図 4 に示すごとく、板状本体 27 と、板状本体 27 に設けられた、被取付部材用レール 8 の嵌合溝 16 に嵌まる嵌合突起 28 と、板状本体 28 に前方突出状に設けられたねじ棒 29 と、ねじ棒 29 にねじ嵌められるナット 30 とを有している。

【0012】

次に間仕切り部材 19 の取り付け方法を説明する。

まず、一番下の被取付部材用レール 8 及び下から 3 番目の被取付部材用レール 8 の嵌合溝 16 に連結具 26 の嵌合突起 28 を嵌める。その具体的操作を述べれば以下の通りである。板状本体 27 の下端が壁パネル 7 から離れるように傾斜状として、嵌合突起 28 を嵌合溝 16 の開口に対向させ、その後、嵌合突起 28 を嵌合溝 16 に嵌める。そうすることにより、板状本体 27 は垂下状となると共に嵌合突起 28 は嵌合溝 16 から抜けなくなる。なお、上下の連結具 26 は、上下方向に並ぶように、且つ、連結具 26 に、後述するようにして間仕切り部材 19 を取り付けした際、設定位置に間仕切り部材 19 が位置するように配慮して、取り付けられる。

20

その後、ねじ棒 29 に対応するようにして連結板 20 に設けられた長孔 25 を利用して、連結板 20 をねじ棒 29 (ナット 30 は外されている) に嵌める。

その後、ねじ棒 29 にナット 30 をねじ嵌めて、ナット 30 により連結板 20 を板状本体 27 に押し付ける。

30

【0013】

以下に変形例等について説明を加える。

(1) 被取付部材用レール 8 には、公知のごとく、嵌合突起 28 を有する棚・収納庫等が取り付けられる。

(2) 被取付部材用レール 23 には、嵌合突起 28 を有する棚・収納庫等が取り付けられる。

(3) 被取付部材には、机・収納庫・普通の間仕切り部材等が含まれる。

【図面の簡単な説明】

【0014】

40

【図 1】本発明の実施の形態を示す中間省略の簡略正面図である。

【図 2】図 1 の II - II 線断面図である。

【図 3】図 1 の A 部分拡大図である。

【図 4】図 3 の IV - IV 線断面図である。

【図 5】図 2 の V - V 線拡大断面図である。

【符号の説明】

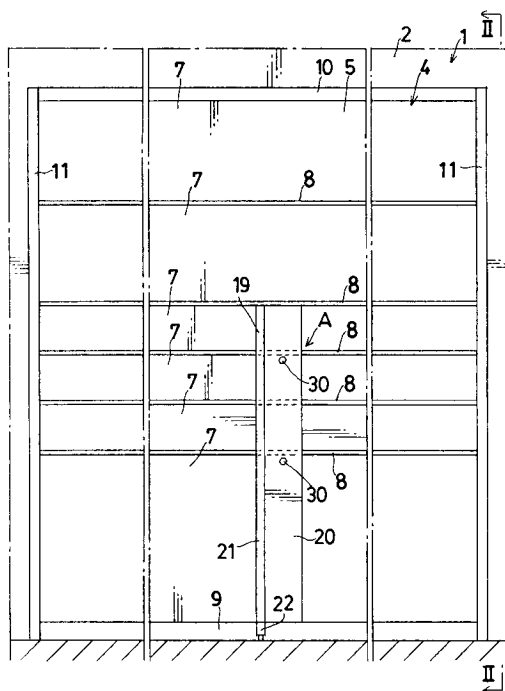
【0015】

- 1 部屋
- 2 側壁
- 8 被取付部材用レール

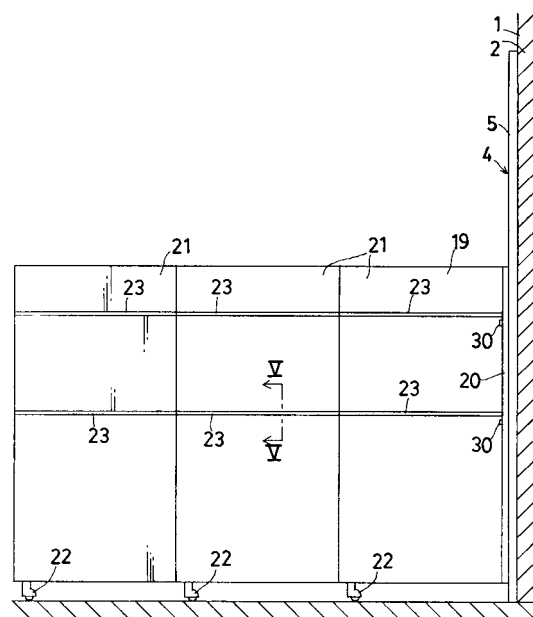
50

- 1 6 嵌合溝
- 1 9 間仕切り部材（被取付部材）
- 2 6 連結具
- 2 7 板状本体
- 2 8 嵌合突起
- 2 9 ねじ棒
- 3 0 ナット

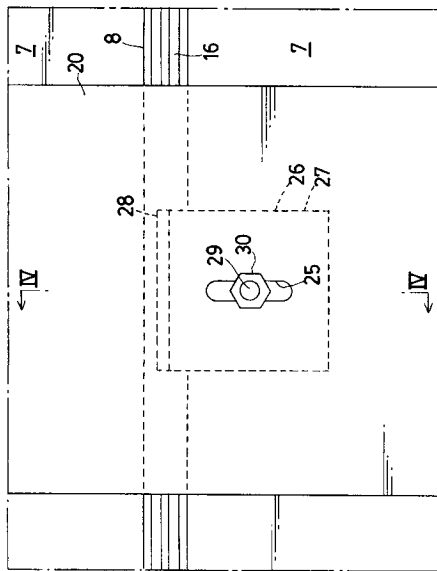
【図 1】



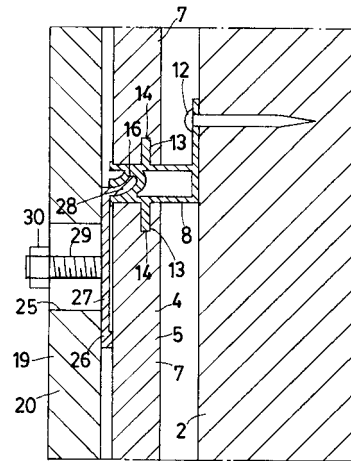
【図 2】



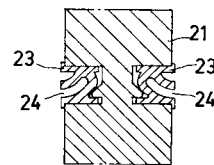
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(72)発明者 西浦 有華子

大阪府大阪市住之江区平林南2丁目10番60号 永大産業株式会社内

審査官 星野 聡志

(56)参考文献 特開2000-002221(JP,A)

特開2003-184210(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E04B2/72

E04B2/74

E04B2/82

F16B35/04